

家庭数

平成30年11月6日
(2018年)

保護者の皆様へ

吹田市立吹田東小学校
校長 宮本 和彦

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

全国の児童・生徒の課題改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、児童・生徒の学力及び学習状況の改善を図るために、6年生を対象として、『全国学力・学習状況調査』が本年4月に実施されました。9月上旬には自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田市教育委員会のホームページに掲載されております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度の実施教科は国語・算数・理科の3教科ですが、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

全国における調査を客観的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取り組みとなるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願い致します。

1 教科に関する調査結果の分析

(1) 国語

《概要》

国語A(『知識』に関する問題)

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての領域を除く全ての領域で全国値を下回っている。

国語B(『活用』に関する問題)

- ・全ての領域で全国値を下回っている。
特に「話すこと・聞くこと」には課題が見られる。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くことに

- 知識：全国値を下回っている。
相手や目的に応じて説明の仕方を工夫することに課題がある。
- 活用：全国値を下回っている。
立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合うことに課題がある。

書くことについて

- 知識：全国値を下回っている。
物語の構成の工夫や効果を捉えて書くことに課題がある。
- 活用：全国値をやや下回っている。
推薦する事物のよさを伝えるため、他のものと比較して書くことに課題がある。

読むことについて

- 知識：全国値をやや下回っている。
目的に応じて必要な情報を捉えて読むことや登場人物の心情について情景描写を基に捉えることに課題がある。
- 活用：全国値を下回っている。
目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことに課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 知識：主語と述語を適切に照応させて文を正しく書くことや相手や場面に応じて適切に敬語を使うことについては全国値を上回っている。
日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことは全国値とほぼ同じである。
文章の中で、漢字を正しく使うことには課題が見られ、無回答率も目立つ。

◇国語科における成果と今後の指導改善点

基礎学力に課題があります。基礎学力を身に付けるためには、まず相手の話をしっかりと聴くこと、また最後まであきらめず学習に取り組む姿勢が大切です。

自分の考えを表出しようとする意欲はありますが、目的や意図に応じて書くことに課題があり、文章を読み取る力の育成が必要です。

上記2点を国語科における重点課題と考え以下の改善を図ります。

児童が興味関心を持ち、意欲的に学習に取り組めるよう、今年度の努力目標である『「わかってうれしい!」「つながってうれしい!」～子どもが考えたくなる発問の工夫～』のさらなる研究を続けます。

物語教材においては、同じ作者の作品を読んだり、同じ題材の作品を比べて読む活動等を通して、児童自身が文章内容や文章表現の面白さに気づけるよう授業改善を行います。

(2) 算数

《概要》

算数A (『知識』に関する問題)

- ・すべての領域で全国値をやや上回っている。
数量関係の記述問題では無回答率の高さが目立つ。

算数B (『活用』に関する問題)

- ・すべての領域で全国値をやや上回っている。
図形の記述問題では無回答率の高さが目立つ。

《各領域における成果と課題》

数と計算

知識：全国値をやや上回っている。

除数が1より小さい少数である場合でも除法を用いることを理解できているかどうかを問う問題では全国値を上回っている。

活用：全国値をやや上回っている。

示された表現方法で記述する問題では、提示されたヒントを活かし切れていないことや記述(説明)に必要なキーワード欠如の課題はある。

量と測定

知識：全国値をやや上回っている。

角の大きさを求めることや角の大きさを理解することはできて、全国値を上回っている。

単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解することには課題がある。

活用：全国値をやや上回っている。

示された情報を解釈し、数量の関係に着目することはでき、全国値とほぼ同じである。

図形

知識：全国値を上回っている。

円周率の意味を理解している。

直径の長さや円周の長さの関係について理解できている。

活用：全国値を上回っている。

図形の構成要素や性質を基に観察して判断できている。

角の和が 360° になることを記述(説明)することには課題がある。

数量関係

知識：全国値をやや上回っている。

百分率を求めることや折れ線グラフから変化を読み取ることは課題があり、全国値をやや下回っていて、無回答率も目立つ。

活用：全国値とほぼ同じである。

複数の情報を解釈し、数量の関係に着目して問題を解決することはでき、全国値を上回っている。

グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり、表現したりすることには課題があり、全国値を下回っている。

◇算数科における成果と今後の指導改善点

3年目の取組みとなる「チャレンジタイム」では基礎的な学習を中心に行い、「東っ子スタディ」では一人ひとりに応じた課題を取り上げ、きめ細かな指導をすることで基礎学力の定着を図ってきました。

授業においては、問題解決型学習を展開するにあたり、自力解決の時間をじっくり取ることで、主体的に学ぶ力が少しずつ付いてきたと考えます。

今回の調査において、上記の取組みが実を結ぶ結果として現れ、算数科における基礎学力の向上が見られました。

たくさんの成果が見られる中、活用問題において課題も明確になりました。

「問題文」を理解する力に課題があります。
情報量の多い問題文の中から、必要な情報のみを取捨選択し、ポイントやキーワードを見つける力が必要です。

記述(説明)する力に課題があります。
理論的・発展的に考察して数学的に表現することが必要です。

上記2点を算数科における重点課題と考え以下の改善を図ります。

論理的な思考が身につくよう、授業において、児童が多様な考え方に触れていく機会をより一層つくっていきます。

児童の意見交流が活発になるよう、さらなる問題解決型学習の充実を図ります。

どの学年も数学的な思考力・判断力・表現力を育成するため、全学年で系統的な授業づくりに取り組んでいきます。

(3) 理科

《概要》

- ・全ての領域で全国値を下回っている。
- ・平均正答率分布は二極化となっている。
- ・記述式及び短答式の問題において無回答があることに課題がある。

《各領域における成果と課題》

生命 — 全国値を下回っている。

腕を曲げる骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することに課題があり、無回答率も高い。

地球 — 全国値をやや下回っている。

より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することはできていて、全国値を上回る結果となっている。

エネルギー — 全国値をやや下回っている。

実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考え方に改善することはでき、全国値をやや上回る結果となっている。

物質 — 全国値を下回っている。

ろ過の適切な操作方法の理解に大きな課題があり、全国値を下回る結果となっている。また、実験結果から言えることに言及した内容を改善し、記述することに課題がある。

◇理科における成果と今後の指導改善点

基礎的・基本的な知識や技能に大きな課題があります。科学的な思考力を伸ばすにも、基礎的・基本的な知識や技能が必要不可欠です。

得られた結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら説明する力に課題があります。

上記2点を理科における重点課題と考え以下の改善を図ります。

実験を伴う学習において、学習内容と生活経験を関係づけ根拠のある予想や仮説を発想させるとともに、図も活用しながら表現し、話し合う活動を取り入れていきます。

学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に適用できるように、工夫改善し、まずは理科学習を身近なものとして興味を持たせていきます。

2 生活習慣や学習環境「質問紙調査」に関する結果

《教科・学習について》

算数科における意識を問う設問

「算数の授業の内容はよくわかりますか」では、肯定的な回答が全国値を上回っている。「算数の勉強は好きですか」では、肯定的な回答が全国値を上回っている。「算数の授業で学習したことは将来役立つと思いますか」では、全国値をやや上回っている。「算数の勉強は大切ですか」では、全国値をやや下回ってはいる。「算数の問題の解き方がわからないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか」では、全国値をやや下回っている。

理科における意識を問う設問

「理科の授業の内容はよくわかりますか」では、全国値をやや下回る。「理科の授業で自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりしていますか」では、全国値を上回っている。「理科の勉強は好きですか」では、全国値を下回っている。「理科の勉強は大切だと思いますか」では、全国値を下回っている。「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」では、全国値を下回っている。

《学習環境・生活環境について》

「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」では、全国値をやや下回っている。「将来の夢や目標をもっていますか」では、全国値をやや上回っている。「学校のきまりを守っていますか」では、全国値を下回っている。

「自分にはよいところがあると思いますか」では、全国値を下回っていて、課題である。「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」等、家庭での学習に関する設問では、全国値を下回っている。

「学校の授業時間以外に、普段(月～金)1日あたりどれくらいの時間勉強しますか(学習塾や家庭教師等に教わる時間を含む)」では、1時間より少ないという消極的回答が多く、そのうち全くしないという回答もある。

「学校の授業時間以外に、普段(月～金)1日あたりどれくらいの時間読書をしますか(教科書・参考書・漫画本や雑誌は除く)」では、30分より少ないという消極的回答が多く、そのうち全くしないという回答もあり、課題である。

3 今後の取り組み

算数科における問題解決型学習の充実・昼休み実施の「チャレンジタイム」放課後学習である「東っ子スタディ」等、重ねて取り組んできたことが基礎学力の定着につながりました。今後も継続して行います。

国語科・理科においては、児童が興味関心を持ち、意欲的に学習に向かう力を育むため、授業改善を図ります。
特に課題であった「話す・書く・読む」の力については、教科を問わず重要な力です。授業の中で話し合い活動や書く活動、発表の機会を増やし、言語活動の充実を図ります。

道徳科の授業や学校生活全般を通して、きまりを守ることの大切さを考えさせるとともに、規範意識を高め、生活の中で活かしていく力を育みます。

教育活動全体を通して、自尊感情や人権意識を高め、友だちとともに学び合い、喜び合う素晴らしさを実感させ、豊かな心を育みます。

家庭学習の習慣が身に付くよう「家庭学習のてびき」の活用していただき、ご家庭と連携しながら「学びに向かう力」の育成を図ります。